

Psoria News

発行 大阪乾癬患者友の会(梯の会)
編集 友の会編集委員

特集

◎第17回学習懇談会



・・・ INDEX ・・・

- | | |
|---|-----------------------------|
| ・第17回学習懇談会行われる
副会長 中山 (P1) | ・横浜皮膚科学会参加記
奈良 吉田 (P6) |
| ・第17回学習懇談会写真集 (P2) | ・広島臨床皮膚科学会参加記
大阪 小林 (P7) |
| ・医療講演
「乾癬の新しい治療について」
兵庫医科大学皮膚科講師
樽谷勝仁先生 (P3) | ・第1回地区懇談会報告
大阪 桔梗 (P8) |
| ・質疑応答 (P6) | ・三重海水浴参加記
大阪 小林 (P9) |

住友病院で

日々の暮らしに直結する内容

副会長 中山

第十七回学習会 過去最高百二十名を超える参加

快晴の六月十六日に住友病院にて第十七回学習懇談会及び梯の会総会が開催されました。定例総会に引き続き、兵庫医科大学の山西清文教授に「患者さんのQOL改善が期待できる乾癬治療」の題で日常生活に係わる治療について幅広く講演頂きました。今春阪大から兵庫医科大学に移られた樽谷勝仁先生には「乾癬の新しい治療について」のテーマで、生物学的製剤を始め近年素晴らしく進化してきている乾癬治療について、欧米の情報を含めご紹介頂きました。どちらも日々の暮らしに直結する内容で、生活の参考にさせて頂ける内容であったと思います。

患者体験談はP-PATの方に東京から来て頂きました。来阪途中新幹線から撮影した雲一つない富士山の写真なども紹介され、詳細な治療経験と経過について話し



学習会の様子

て頂きました。

また、今春高知大学に就任されました佐野教授からは、いよいよ姿を現しましたSTAT3のSTAT21の治療について紹介して頂きました。治験開始早々から素晴らしい効果が発揮されているとのこと、大きく期待がふくらみます。

す。

今回総勢百二十一名と過去最高の参加者となりました。相談医の先生方を始め各医療機関で積極的に案内を頂いたことや皆さんの関心の高さが要因でした。今回初めての試みとして、懇親会でキーセットを用意致しました。参加者の半数の六十名が懇親会に出席されましたが、好評でしたので住友病院での開催時にはまた考慮させて頂きます。先生方への相談も数多く所定時間をおかりオーバーする活況でした。

プロ野球や大リーグのみならず高校野球でも対戦相手をVTR等1で戦力分析すると聞きます。相手を知らないとは勝つことは出来ませんし無駄も多くなります。梯の会では学習懇談会やホームページ等で出来る限りの情報提供をさせて頂きますので、是非効果的な治療に結びつけて頂きたいと思えます。

学習会で講演頂いた先生方と共に、会場の設営から懇親会の手配までお骨折りを頂きました庄田先生始め住友病院の皆様、最後まで質問に応じて頂きました相談医の先生方に深く感謝致します。

第17回学習懇談会(住友病院)の様子



住友病院



受付風景



会長挨拶



患者体験談



質疑応答



質疑応答



医療相談コーナー



懇親会の様子

第十七回学習会講演より

「乾癬の新しい治療について」

兵庫医科大学皮膚科講師

樽谷 勝仁



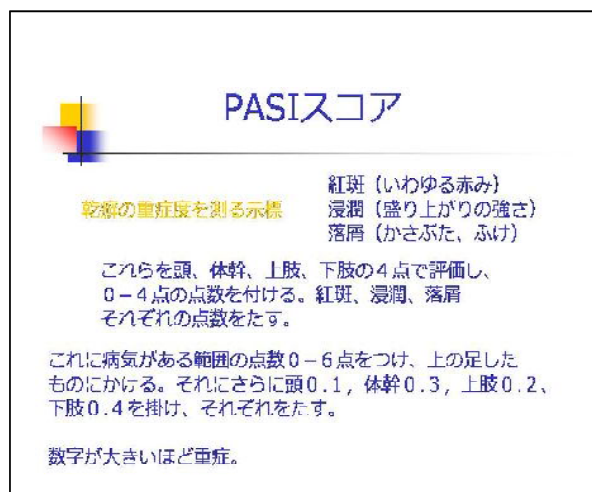
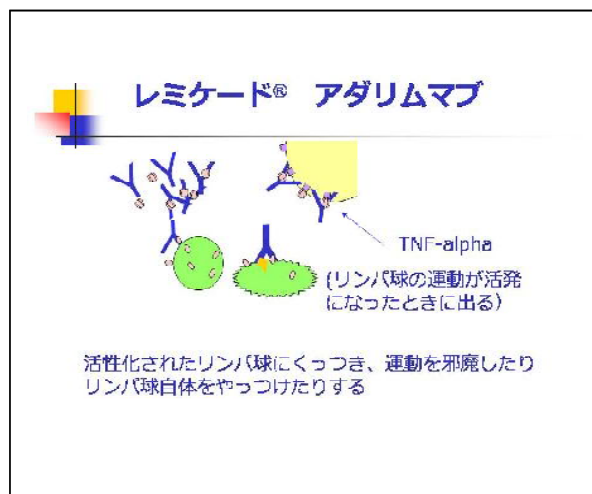
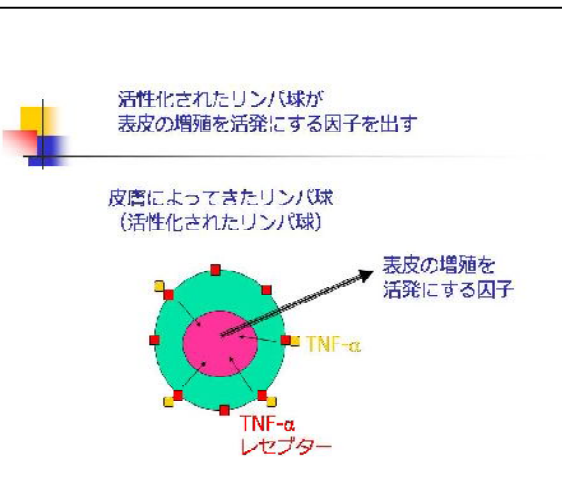
樽谷先生

かつてリンパ球という炎症を起こす細胞が寄ってくるという特徴を持っています。この現象が起きる原因ですが、真皮（皮膚の下の部分）にリンパ球が寄ってきてそれが原因で皮膚が厚くなり乾癬という病気が起こるという考え方があ

ります。皮膚に寄ってきたリンパ球はTNF-αレセプターというレセプター（受容体）をその表面に発現しています。そのレセプターがTNF-αと結合すると細胞の中にシグナルが伝わり、表皮の細胞を活性化し、因子を出します。生物学的製剤で乾癬に使われる抗TNF-α抗体はこのシグナルが伝わるのをブロックすると同時にリンパ球を直接やっつけたりもします。抗TNF-α抗体には現在二種類がアメリカで発売されており、日本でも臨床治験中です。このうちアダリムマブは天然型の抗体で二週間毎に皮膚に注射して使用します。話は変わりますがこれら新しい

治療法を評価するときにPASIスコアという指標を用いますのでこのスコアについて簡単に説明させてもらいます。このスコアは紅斑（いわゆる赤み）、浸潤（盛り上がり）、落屑（かさぶた、ふけ）の強さを評価し、頭、体幹、四肢、下肢の4点で評価し、0～4点の点数を付けて、それぞれ0.3、0.2、0.4を掛け、それぞれをたす。数字が大きいほど重症。

兵庫医大の樽谷です。今回は乾癬の新しい治療法についてお話ししたいと思います。今回お話しするのは生物学的製剤、ネオオーラルの少量投与による治療、新しく発売されるビタミンD3ローションについてです。



再びアダリムマブに戻りますが、アメリカでのアダリムマブの成績ですが、千二百人の患者さんに注射を行いまして中等度～重症のほぼ四分の三の乾癬患者で十六週投与後に皮膚症状(PASIスコアによって判定)が七十五%改善しました。さらに五十二週までその効果が消失した人の割合は五%しかなく、副作用としては風邪、鼻咽頭炎、頭痛というものでした。もう一つアメリカで使用されている抗TNF- α 抗体としてレミケード®があります。これはマウス・ヒトキメラ型抗TNF- α 抗体で、点滴で使用し〇、二、六週時、その後八週毎に投与します。三十三人の

重症患者を対象とした試験で七十五%以上のPASIスコアの改善を示した患者は、レミケード®投与群では七十七%でした。またアメリカでの高用量と中用量(5mg/kg, 3mg/kg)とプラセボ(薬を投与しない)の三グループに分けて十週間後のデータ、〇、二、六週後に投与してその後に高用量と中用量(3mg/kg, 5mg/kg)を八週毎か患者が必要となるときに投与したという八百三十五人の分析では十週後に高用量の四分の三、中用量の七割の患者の皮膚症状(PASIスコアによる)が七十五%改善しました。また長期的には五十週後では八週毎に薬を使って七十五%以上改善

している人の割合が高用量五十四%、中用量四十三、八%という結果でした。八週毎でなく必要時に投与なら少しこれよりも効果が落ちていきます。副作用ですが結核、肺炎などの感染症にかかりやすくなること、マウスの部分を持つているために点滴をしているうちにアレルギー反応が出る時がある、アダリムマブと同様副鼻腔炎、頭痛が出現することもあるという結果でした。

まとめますとアダリムマブは天然型で使い方は二週間毎に皮下注射して治療を行う、レミケード®はキメラ型で使い方は最初は〇、二、六週、その後八週毎に点滴して治療を行い、アダリムマブより投与間隔が長いです。両方ともアメリカでは三ヶ月で治療を受けた患者の七十五%が皮膚症状が七十五%改善しました。副作用として頭痛、副鼻腔炎、免疫をおさえるため感染症、特に結核にかかりやすくなることもある、レミケード®はアレルギー反応が出ることがあります。

アダリムマブ

天然型の抗TNF- α 抗体

皮下に注射して使用する。

2週間毎に注射を繰り返す。

レミケード®

マウス・ヒトキメラ型抗TNF- α 抗体。

点滴する。

始めは0, 2, 6週時、その後8週毎に投与する。

比較的に軽い乾癬患者に対してのネオール®投与法

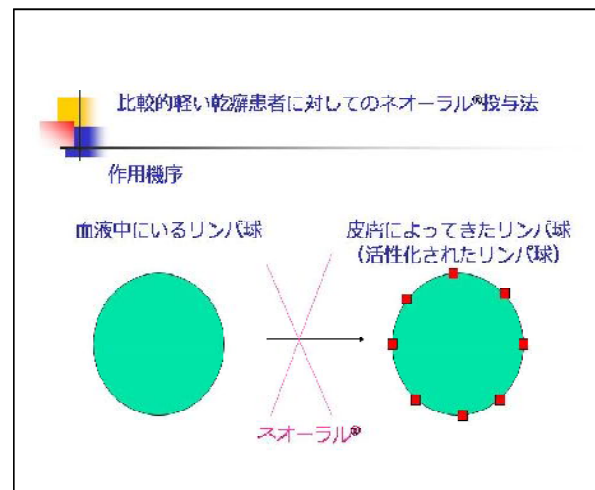
作用機序

血液中にいるリンパ球

皮膚によってきたリンパ球(活性化されたリンパ球)

ネオール®

つぎにネオール®についてです。私たちは現在比較的軽い乾癬の患者さんに対して少しの量を使うという治療法を試験的に行って



きます。良くなつて薬を止めると痒みが多少ぶりかえします。ネオオーラルの副作用としましては高血圧、腎障害などがありますが、少量の投与ではほとんど問題になることはありませんでした。治療、日常生活の満足度も向上しました。この治療で注意することは光線療法は原則として禁忌で、チガソンの併用も副作用が強く現れる可能性があるため禁忌、またグレープフルーツジュースと一緒に服用しないことです。

ネオオーラルは一日300mg 三割負担で月三万三千円します。ちなみにチガソンは一日5mg 三割負担で月六千六百円です。

次にステロイドとビタミンD3を混ぜて処方するコンビネーションセラピーという治療法についてお話しします。現在欧米でDovobetという合剤が発売されています。一日一回塗布で、ビタミンD3誘導体とステロイドのそれぞれの製剤を一日二回塗布するよりも効果が高いとされています。

この合剤は良いのですが一般的にビタミンD3はpHが酸性に傾くことにより活性を失う反対にステロイド外用薬はむしろ酸性側で安

定ということがあり、混ぜるものによつては薬の効果が薄れることもあり、自分勝手に混ぜて置いておくことについては注意が必要です。

最後にビタミンD3ローションの話です。ローションは主に毛の生えているところに使います。もともとボンアルファローションのみしかありませんでしたが、最近になりボンアルファハイ、近日中にオキサロールローションが発売予定です。

外用剤の使用量ですが、フィンガーティップユニットという計り方がありまして、人差し指の指腹部の末節部に乗せた量が軟膏、ク

ネオオーラル®の主な副作用

高血圧

腎障害

少量投与ではこれらの副作用はほとんど無かった。

コンビネーションセラピー（ビタミンD3とステロイド外用剤を混ぜて使用する）



Dovobet（現在欧米で発売中）

- ・ビタミンD3誘導体（ドパネックス®）とステロイド（リンデロンDP®）の合剤
- ・1日1回塗布で、ビタミンD3誘導体とステロイドのそれぞれの製剤を1日2回塗布するよりも効果が高い

ビタミンD3外用剤の注意点

ビタミンD3製剤は光に弱く、皮膚に塗った後日光に当たるとすぐに効果がなくなってしまいます。

全身に大量に使用しているなど1日の使用量が多い場合、（目安として週に90g以上の使用時）

血液中のカルシウム濃度が上昇し体がだるくなるなどカルシウム過多の症状が現れることがあります。

リームの一フィンガーティップユニット（FTU）で、これは〇、五gです。ローションでは一円玉大（〇、五gです。一円玉大（十五滴程度）で手のひら二つ分の範囲が塗れるとされています。ローションでは洗髪後できれば十分以内に塗るとより効果的です。これらビタミンD3外用剤の注意点としてはビタミンD3製剤は光に弱く、皮膚に塗った後日光に当たるとすぐに効果がなくなってしまう、全身に大量に使用しているなど一日の使用量が多い場合（目安として週に90g以上の使用時）血液中のカルシウム濃度が上昇し体がだるくなるなどカルシウム過多の症状が現れることがあるという点です。

以上で私の話は終わりですが兵庫医科大学で七月より乾癬外来が始まります。私が担当で毎週曜日十四時から十六時までです。御静聴どうも有り難うございました。

* 第十七回学習会のうち、山西清文先生と佐野榮紀先生の講演は次号に掲載予定です。

質疑応答



質問に答えて頂いた先生方

Q、「六十歳の女性で、乾癬になって十年近くになりますが、現在は良い状態です。今、腕に二箇所、乾癬のようなものができてきているのですが、これは乾癬でしょうか？白癬でしょうか？」

A、山西清文先生

「これは一度診察にお越しただいて、検査等をしないと乾癬かどうかという事は判断できません。見た目でこれは乾癬の初期だと考えられる場合でも白癬と似ている場合もありますので、やはり診察にきていただければと思います。」

Q、「私は乾癬はほとんど治った状態ですが、今までに同時進行していた掌跖膿疱症がひどくなっています。今はビタミンD3と光線治療をしています。本日シクロスポリンによる治療を聞き、副作用が心配になってきました。甲状腺機能低下による血小板減少等、私はいろいろと病気があるので心配です。」

A、樽谷勝仁先生

「具体的に病気の状態が分からないのですが、免疫力が低下している可能性がありますので、それに関しては注意しなければいけません。場合によっては甲状腺機能低下症にシクロスポリンが効く場合もあります。ただ、病気の状態が詳しく分かりませんので、きちんとお答えすることができません。申し訳ありません。」

Q、「STA21軟膏の副作用の期間はどのくらいでしょうか？」

A、佐野榮紀先生

「これについてはまだよく分かりません。STA21というのは抗生物

質ですが、実際人に対して使用した事はありません。実は軟膏を作った時に私も含め五人のドクターで塗ってみてすぐかぶれるなどがないかどうかチェックをしたたりしてそれはありませんでしたが、あくまでも五人で試しただけです。今回おみせしたように、特に重症の副作用というものは無いと思います。たまたま将来的に血中に入ってしまうなど、そういった時に出てくる副作用については今現在では分かりません。」

Q、「夏の保湿剤をいくつか教えてください。尿素配合のものは体に合わず、ウレパールやケラチナミンを使用しています。」

A、佐野榮紀先生

「夏の保湿剤ですが、私は使いやすいと思うのはザーネです。あとはヒルドイドももちろん夏冬問わず保湿剤としては良いと思います。基材としてはヒルドイドソフトやヒルドイドローションも使用感がいいので夏はべたべたしたもの嫌だという方にはそういうローションなどの方がいいかもしれません。」

Q、「コーラなどの飲み過ぎや糖分の摂りすぎは乾癬に影響はあるのでしょうか？」

A、佐野榮紀先生

「糖分の摂りすぎが乾癬に良くないのかどうかという事は、コーラに関してはデータとして私は存じませんが、乾癬に限った事ではなく全般的に偏った食生活というのは良くないだろうと思います。ただコーラを飲んで乾癬がひどくなった、すごく悪くなったというのを私は聞いた事がありません。ただ何事も摂りすぎはいけないという事で、常識の範囲内で摂りすぎないようにという事で認識していただければと思います。」

Q、「乾癬になって四十五年が過ぎようとしています。これから6先、自分以外の人に自分の体をお任せしなければいけない時がきます。漂白剤やマジックリンのように、一度にきれいになれるとは思っていませんが、他の人が私の体を見て目を背ける事のない程度には治しておきたいと思っています。宜しく御願います。」

A、小林照明先生

「私は開業させて頂いておりますが、先程大学などで活躍されている先生方がおっしゃられていたように、たくさん夢のある薬が将来は出てくるというお話をされていましたが、今現在としては、まだ

そういうお薬がまだ一般的ではなく、まだマジックリンのように消す事は難しいかと思えます。ただそれに一番近いのではないかと今私が考えているものがネオールです。

ネオールははじめの内はいいのですが、継続投与で副作用など色々とマイナス面が出てきます。それをいかに少なく使うかという事で今樽谷先生がデータ集めをされている段階です。ですので、ネオールを使われてもいいですが、悪い状態を良くする、良い状態を続けるという面に関しては継続投与するのが難しい薬です。私が紫外線を中心に治療させて頂いているのは、副作用が少なくという事で紫外線治療を使っても多く治療させて頂いています。それでも一度にというのは無理です。で、徐々に良くなって、かなり少ない状態が維持出来るという風にさせて頂きたいです。新しい治療、強い治療にやみくもに飛びつくのではなく、自分に合った治療を医師ときちんと相談されて冷静に判断された方が慢性の病気である乾癬の治療には良いのではないかと思えます。」

Q、「ビタミンA誘導体であるチガソンはお薬が高いので、いわゆ

るジェネリック医薬品で代わりになるようなものはないでしょうか？市場が小さいのでそれを理由にメーカーさんが作る気がないのでしょうか？」

A、吉良正浩先生

「はつきりした事は分かりませんが、私が知っている限りではチガソンのジェネリック医薬品というのは聞いた事がありません。市場が小さいのでメーカーさんが作る予定がないのかもしれませんが、今のところそういうお薬はありません。」

Q、「日常の日光浴でも効果が期待出来るのでしょうか？」

A、吉川邦彦先生

「答えはYESです。現在用いられている光線療法は紫外線を利用したPUVA療法、UVB療法、ナローバンドUVBというものがあります。これらの光線は全て太陽光線の中に含まれています。ですから光線療法などが都合でしにくい方や、そこまでする必要の無い方には日光浴をするというです。すよということをお勧めしています。但し、過ぎたるは及ばざるがごとしで、以前私の患者さんで日光浴がいいですよとお勧めしたところ、家で思い切り焼かれて、

真っ赤に日焼けになりました。ケブネル現象という事が起こりました。ケブネル現象というのは、何か炎症が起こるとそれをきっかけにして乾癬ができてしまいます。焼けたところ全身が乾癬になられた患者さんがおられましたので、

焼きすぎにはくれぐれも注意していただかなければいけません。赤くなつてヒリヒリするような焼け方は良くないのであって、知らない間に焼けるというか、赤くならずの色がついてくるようなマイルドな日光浴が良いのではないかと思います。ちなみに、紫外線に当たるとビタミンDも作られますのでどこまで効果があるかは分かりませんが、多少ともそういう効果があるかもしれません。」

Q、「乾癬の治療は、製薬会社の作った薬のみで民間療法は導入せず治療すべきだとお考えですか？医療機関で治らない場合、民間療法を勧めることはありますか？」

A、東山真里先生

「まず民間療法といっても色々あります。例えば日光浴というのも民間療法とは言えないまでもそういう範囲に入るかと思えます。温泉も北海道の会では豊富温泉という乾癬やアトピーに効くと

言われている温泉で治療をするツアーを毎年企画されています。そういうものは、医者がみてはつきりと有効性があるものなので、そういうものは一度試してみるのには良いことだとは思っています。ただ、

民間療法の中には非常に悪徳なものもありまして、乾癬の患者さんをも診察しております。そういうもので非常に悪化してひどい被害を受けた患者さんもたくさん見られます。です。です。です。医学的な有効性のある治療をしていく事がやはり基本だと思います。そういう意味で民間療法をやりなさいという事を申し上げる事はありません。特にインターネットというものは色々な情報が入り混じっております。パッと乾癬が消えるとか、あつという間に乾癬がなくなるなどという、そういう強烈なキャッチフレーズで患者さんの目を引きつけるようなコマースシャルが目に入ってきます。そういう面で今日専門の先生方が話された治療や、最先端の治療もあると思えます。で、そのような乾癬に有効な治療法をまず試してみたら考えてみてはどうかと思えます。民間療法の中には患者さんの弱みにつけこんだ悪徳なものが多々あります。

で、用心していただきたいと思いますし、そういう事を考える前に患者会もありますので、患者会の方にこういう治療を聞いたんだけどどうだろうかと相談していただいたり、主治医の先生に相談してこれをしたのですがどうでしょうかと聞いていただければと思います。」

Q、「私ではなく家内が乾癬なのですが、シクロスポリンは良く効くと聞いて降りましたが、先程から話を聞いておりまして副作用というのはそんなに怖いものなのでしょうか？個人差はあると思うのですが、どのくらいの期間服用すれば効果が現れるのでしょうか？また、飲むのをやめると乾癬も出てくるようになってしまいうのでしょうか？」

A、樽谷勝仁先生

「昔はお薬の量を大量に使ったりしていましたが、今は使用する量も出来るだけ低く設定してなるべく副作用がでないように使っています。気をつけるとすれば、やはり高血圧と腎臓で、定期的に血液検査をしたり血圧を計ったりしていただきながらでないと飲めない薬だと思います。個人差はありますが、だいたい三ヶ月で効果

が出てくると思いますが、一部いくらしても効果が出ない方もいらっしゃると思います。シクロスポリンを飲むのをやめると乾癬がまた出てくるのかどうか、又出てくる方が多いです。そういう場合はシクロスポリンを飲みながら、並行して外用剤も塗布していただくと、すぐに悪くなるというケースは避けられる可能性が高くなると思います。」

A、小林照明先生

「先程も樽谷先生がスライドで示されたように、低容量であればそんなに心配するほどの副作用は出ないということがわかっています。ネオオーラルを服用中は紫外線が良くないと言われていたのですが、最近ではあまり心配いらないのではないかと変わってきていて、最近ではアメリカでは紫外線と一緒に使つての治療をしたりもしていますので、悪い状態はネオオーラルで抑えてある程度良い状態が続いてくると紫外線というようにに組み合わせる程度余裕を持って考えられるようになってきています。だからネオオーラルという副作用が強いのではと不安になるよりも、主治医に血中濃度を計ってもらうなどきちんと医師の

下管理してもらって安心して使っていたいただいた方がいいかもしれません。」

Q、「免疫の事についてお伺いしたいのですが、乾癬という病気は主に免疫が悪さをしているという事なのですが、私は約一年前に前立腺ガンを患いまして西洋医学で治療をしておりました。免疫力を高めるという意味で漢方薬を試したりもしました。今回乾癬というのは免疫力が悪さをしているとお聞きして、そういう免疫力のレベルというか、程度というのはどれくらいのものなのかというか、どう考えればいいのかを教えてください。」

A、佐野榮紀先生

「免疫力というのは実は総称なのであり、良い免疫力もあれば悪い免疫力もあります。例えば乾癬の人でもそうでずしアトピーの人もそうなのですが、普通はばい菌に対して免疫力とか言いますね。例えばガンがあつてガンに対する免疫力とかいう言い方をしますね。自分に不都合なものを除けるものもありこれはばい菌に対する免疫という事で良い免疫ですね。では悪い免疫というのは自分の体に対して抗体が出来てしまう、自分の

体をこわしてしまふようなもの、例えば膠原病や自己免疫疾患というもので甲状腺に対する抗体が出来て強く抵抗性が出てしまう。普通はばい菌やガンに対して抵抗が出来るものが良い組織に対して結果的に障害を負わせてしまふというような悪い免疫というものもあります。乾癬では免疫が少し強く出過ぎてしまふという意味での免疫と申し上げている訳で、一言で免疫と申ししましても色々な免疫力というものがあるという事をご理解いただければと思います。」

A、小林照明先生

「二つのものが必要か必要でないかという問題ではなくバランスの問題で、過剰にあると悪くなつてしまふという事で免疫が強い弱いという事ではなく、分かりやすくいうとバランスの問題だと理解していただくといいかとも思います。」

A、庄田裕紀子先生

「難しくないお話で説明させて頂きますと、尋常性乾癬もそうだと思いますし、アトピーや他の色々な病気もそうですが、よくストレスは万病の元と言いますよね。実際にストレスがあつたり仕事が忙しかつたり追いつめられていたり

という状態になりますと、漠然とした言い方ではありますが体調が崩れてきます。昔から乾癬というのは外国専門のリゾートがあったりもして、そういうところで治療ももちろんするのですが、なおかつゆつたりとリラックスをしていただくという事が治療の一環にもなります。アトピーにしてもそうなんです、ストレスが増えたり仕事で忙しくなった途端に症状が悪くなる、逆に休暇を取ったりちよつと夏休みでどこかへ遊びに行ったりすると湿疹はどこにいったの？という位に良くなる人も良くなります。乾癬はそれぐらい波のあるものでストレスもなくのんびりゆつたりとした充実した日々を送ると免疫もきつと良い方向へ働くのではないかと思えます。治療とは少し離れた話になりますけれど。カリカリするのも良くないし、治療に専念するとその結果良くなってくるのではないかと思えます。」

Q、「先程のお話ではUVBは週に二〜三回が好ましいという事でしたが、私は週に一回、月にして三回程なのですが、UVBの治療回数はやはり多い方がいいのでしょうか？」

A、小林先生

「海外では最初は週に五回、平日に当てるとというのが一般的ですが、最近ではもっと実用的にしようということでデータも出てきましたし、週に二〜三回が一般的となりつつあります。やはり最初はなるべく週に三回当てていただいた方が乾癬の症状は週に一回、二週間に一回当てるよりも格段に良くなります。ですからなるべく通えるようであれば週に三回、それで二十〜三十回程当てたら、私のクリニックで言えば六十%の人が乾癬の皮疹は半分以上消えますから、そういう状態になれば週に一回とか、お仕事が忙しければ二週間に一回の方もいらつしやいます。ですので通えるのであれば週に三回の方が効果はあると思えます。」



いよいよ乾癬学習懇談会2007 in 志摩

9月7日(金)・8日(土)開催される第22回日本乾癬学会総会(三重大水谷教授主催)事務局のお計らいで三重県乾癬の会と全国9地域の患者会が協力して主催する全国乾癬患者学習会「乾癬学習懇談会2007 in 志摩」が開催されます。学習会では第一線で活躍している乾癬の臨床家、研究者をお迎えして講演して頂く予定です。

学習会

日時：2007年9月8日(土)16:00～

会場：ホテル志摩スペイン村

主催：全国の乾癬患者会(担当：三重県乾癬の会)

内容：学習講演会

プログラム

■第22回日本乾癬学会の報告(トピックス)

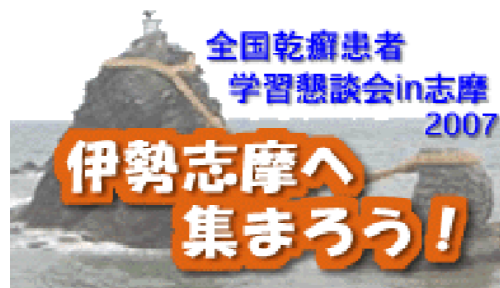
三重県乾癬の会相談医 谷口芳記先生

■特別講演

○乾癬について(フリートーク) 小林 仁先生

○「アメリカにおける乾癬治療―患者中心の視点より―」 John Koo 先生

■質疑応答 等



第106回日本皮膚科学会参加記

東京で患者会活動

奈良県 吉田

第一〇六回日本皮膚科学会総会に標準をあわせて、「乾癬の会」の啓蒙を語るべく東京地区の患者会の活動を支援するのと親睦を図る為、大阪地区から不肖私が参加することになりました。

第一〇六回日本皮膚科学会総会の日程は四月二十〇二十二日ですが、私個人の時間の都合もあり、二十一日の早朝（五時三十分）田

原本（奈良県）をお手伝いしてくれるお茶飲み友達と共に出発しました。それまでに前日、車のエンジンオイルの交換、タイヤ空気圧の調整等整備を済ませ、長距離走行に備えました。

横浜までのドライブは、名阪、東名阪、名古屋湾岸、東名を経由して横浜入り。走行距離四七五km。まずは東京患者の会の添川様にお世話して頂いたホテルにテックイン、その足で会場に向かい、会場到着時間は十四時でした。東京地区乾癬患者友の会から青木会長、阿高副会長、添川・寿会員、名古屋から保田会員が既に到着しておられ、我々は受付業務のお手伝いをする事にしました。会場となったパシフィコ横浜はさすが日本第二の都市の横浜にふさわしい建物で、我々「おのぼりさん」にとって驚嘆に値しました。大阪から発送した会報百五十部は江藤先生他の方々の患者会の紹介もあり、我々の到着時点で既に配布完了していました。

受付業務中にも学会に参加された先生方も結構来場され、各地から用意した「乾癬の会」だよりのストックも見ると減少して行きました。途中時間を頂いて、百十

以上に及ぶ企業展示会の見学も行いました。夜には青木会長外の皆様と懇親会に臨み、その後には横浜中華街に向き、夕食にラーメンとビーフンを喫食しました。食後はホテルに戻り、疲れもあり爆睡しました。

翌早朝、かの有名な港の見える山下公園を散策し、船を見ながら朝食をとり、ロマンチックな雰囲気を感じる事が出来ました。それから地下鉄で会場に移動し、十時前に会場に到着しました。受付には名古屋の保田さんが既に到着しておられ、我々も加わって昨日に



他会と共に患者会活動をPR

引き続き受け付け業務を行いました。暫くして、添川さんと会計担当の平井さんも来場され、乾癬に関する情報交換を行いました。又、この様な会が再々催される事を切に願いながら、帰宅までの距離を考えて、後ろ髪引かれる思いで十二時に会場を後にし、ホテルに車を取りに戻り、帰途につきました。今回の「横浜行き」では、大阪の中山さん、東京の添川さんに並々ならぬお世話に成った事に関し、この場を借りて御礼申し上げます。

尚、今回の「横浜行き」の主旨は乾癬患者会メンバー同志の親睦を図るのがメインで、しかも時間的余裕ありませんでしたので、諸先生方の講演を拝聴する事が出来なかったのは真に残念でした。次回この様なチャンスがあれば、もう少し時間の余裕を持つて行動したいと思えます。これは全くの余談ですが、車で走行途中に首都圏、中京及び関西の経済活動を外部から垣間見る機会を与えられて、関西の地盤沈下の様子が日増しに進んでいる事が肌感じられました。

第23回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 参加記

広島で交流・親睦をはかる

大阪府 小林

第二十三回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会がさる五月十九日(土)、二十日(日)の二日間に亘って、広島市の平和記念公園内にある「広島国際会議場」で開かれましたが、今回も学会に併せて乾癬患者会活動のPRを会場内で行いました。今回は大阪患者会が主として担当ということでした



会場の広島国際会議場

ので、幹事会から岡田会長・中山副会長、幹事の加納、小林の四人が参加しました。また北海道・東京・愛知の患者会からも参加され合同で会場内に展示ブースを設け、訪れて来られる医師やその他の医療関係者に患者会の説明を行い、会報や機関誌を配布しました。企業展示室の一角にブースは設けられたのですが、多くの医師が立ち寄られ、ただ見るだけではなく、患者会がどのような活動をしているのか、全国のどんな地区に患者会があるのか、自身が治療されている地域にはないのかなどを熱心に聞かれる方も多くありました。ブースには大阪大学の西田氏による大きな全国患者会のマッ

プが掲示されており、一目で全国の様子が分かるようになっていました。

十九日夜には広島在住の会員渡辺氏が骨を折って下さり、広島市内の料理屋で懇親会を行いました。各会から九名の参加がありましたが、地元の名産物に舌鼓を打ちながら、大変楽しいひと時を過ごす事ができました。さらに二次会はカラオケルームに移動し、全国の患者会の情報交換やそれぞれの状況など真面目な話から、色々なエピソードなど楽しい話題まで非常に楽しい時間になりました。

二十日(日)のモーニングセミナーでは北海道患者会の相談医でもいらつしやる札幌クリニックの小林仁先生が「皮膚を通した全人医療を目指して・患者と歩む医療の構築」というテーマで講演を行いました。講演では小林先生が作成された、乾癬・成人アトピー



展示ブースの様子



全国の仲間と共に懇親会

性皮膚炎・白斑の患者さん代表と小林先生との座談会の模様が映され、その後、医師と患者会が共に協力して治療にあたっていくという先生の基本的な方針が述べられました。患者会にとっても非常に有り難い内容で、講演後の質疑応答では何人かの医師がフロアより非常に感銘したという感想を述べられていました。

臨床皮膚科学会での患者会参加活動も定着してきた感がありましたが、これはもちろん患者会だけでなく医療関係者の積極的な支援、また全国患者会との協力があってこそです。今後もさらに協力関係しな

第一回「日生」地区懇談会開催報告

二十五名が参加…自由にトーク

大阪府 桔梗

去る、七月一九日（木）日生病院カンファレンス室において、第一回「日生」地区懇談会が開催されました。

開催に際しては、当会の相談医をしていただいております東山先生に、「患者同士が気軽に話し合える場所を提供いただけないか。」と相談したところ快く引き受けていただきました。さらに私の考えでは、別館にある多目的室（幹事会や会報発送作業等でお借りしていました）をお借りする予定で話していましたところ、別館では不慣れな患者さんにはわかりにくくて、不便でしょう、と同じフロアにあるカンファレンス室の使用についてご提案いただきました。もちろん、こちらにとつては、望外のこと、喜んでお受けしました。

また、準備についてはカンファレンス室の利用状況の確認や、患者さんへの案内チラシの印刷

等々、事務局の森本さんにはなにかとアドバイスいただき、無事開催にこぎつけることができました。

さて、準備万端整ったとはいえ、当日、はつきりいつて何人の方が参加いただけるか、不安でした。会場の設定については、事務局の森本さんと十人程度のしみがふたつもあれば十分と思つて、セツトしました。また、お茶や紙コップについてもそのくらい用意しました。ところが、予想に反し、次から次とおみえになり、テーブルの配置換えや、お茶・紙コップの追加やら裏方は大忙し。また、進行についても話のきつかけをどうしようかと、小道具を持参していましたが、そんなものはまったく杞憂で、まるで旧知の間柄のようにお隣同士でおしゃべりされたり、五周年記念の会報を熱心に読まれたり、皆さんに質問したいと

いう方がいらつしやったり、待合室での物静かな雰囲気とは全くちがった雰囲気、予定していた時間があつという間に過ぎました。

参加者は、病院関係者が、山下婦長（本当は看護師の長なので師長と呼ぶべきなのでしょうが、師長より婦長の方が格上のような気がしますので、婦長とよばせていただきます）と事務局の森本さんの二名、幹事が中山副会長ほか九名、一般参加の方が十四名でした。

ただ、残念なことに幹事のフォローがいきとどかず、二名ほどの方がすぐにお帰りになられました。

た。次回はフォローできるように努力しますので、懲りずにきてください。よろしくお願いします。

懇談会を終えて、感じたことは医師とのコミュニケーションは取れていても、薬剤に対する不安や生活上の悩みなど、同じ悩みをかかえた者同士が話し合うことで心の負担が軽くなるような気がしました。また、そんな機会をできるだけ多く作っていきたいと感じました。

尚、次回は九月十一日に予定しています。さらに多数の方がご参加いただけますようお願いいたします。

最後になりましたが、すばらしい機会をあたえていただきました東山先生はじめ日生病院の方々や、ご参加いただきましたみなさまに紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げますとともに、この会の継続、発展のため、さらにご助力賜りますようお願い申し上げます。



大盛況だった初のミニ懇談会

＊次回は九月十一日（火）です。ぜひお気軽にご参加ください。

浜辺で楽しくBBQ



海岸はほぼ貸し切り状態です。



谷口先生を囲んで



いよいよバーベキューの開始です



今年は赤福氷もしっかり賞味！

7月29日（日）、毎年恒例の三重県乾癬の会主催の海水浴行事「黒こげになってみよう会」が例年通り開かれました。大阪からは岡田会長と幹事の小林の2名が参加しました。今年は愛知の保田氏、また北海道の会の佐々木氏も参加され、大変楽しいものになりました。いつものように名阪国道の伊賀ドライブインに朝六時、三重の会の富井氏がマイクロバスにて迎えに来て下さり、途中の待ち合わせ場所でそれぞれ参加者が順次乗車し、現地三重県度会郡南勢町ニワ浜海岸へ向かいました。三重の会からは例年のように市立四日市病院皮膚科部長谷口芳記先生も同行されました。全員で9名の参加でしたが、残念ながら？今年は女性の参加がありませんでした。

途中のスーパーで買い出しをした後、海岸へ到着し、早速テントを設営しました。皆さん慣れたものであっという間に完成。大阪の岡田会長は現地へ直接到着され、全員が集合。当日は日差しは大変強かったのですが、さわやかな風が常時吹いており、テントの中では大変快適でした。早速海の中へザブンと入ったり、日光浴をしたりした後、いよいよバーベキュー。いつもながら谷口先生みずから肉や野菜を焼いていただき、ビールを飲みながらおいしい焼き肉に舌鼓を打ち、ワイワイガヤガヤと話が弾み時間の経つのも忘れるほどでした。話は各自の症状や治療、各患者会の話、今度の伊勢志摩学習懇談会など、まじめな話から雑談まで、楽しい時間となりました。

三時前に終了し、これもまたいつものように伊勢神宮付近にある名物赤福氷を賞味するため一路当地へ向かいました。去年は店舗が工事中でせっかくの赤福氷が賞味できなかったのですが、今年は改装も完了し、一段ときれいに広くなったお店で名物のかき氷をみんなでいただきました。いつもながら大勢の人で席を見つけるのも一苦労という感じでしたが、無事目的達成？となりました。

その後、集合場所に従って順次下車。七時前には伊賀ドライブインに到着しました。

今年もまた楽しい企画をしていただきました三重の会には厚く御礼申し上げます。今後も様々な形で各患者会の交流親睦が図れたらよいと思います。（小林）

お知らせ

★編集局の方では皆さんの原稿を募集しています。乾癬についての自分の体験、自分が行っている治療法、日常生活で心がけていること、乾癬治療に役立った事、その他何でも構いません。エッセイ・詩・短歌・俳句などもぜひ投稿してください。お待ちしております。

★「PSORIA NEWS」では「乾癬Q&A」コーナーを設けています。症状や治療法、薬など乾癬に関する質問がありましたら編集局までお寄せ下さい。代表的な質問などを選んで、相談医の先生方に会報上で答えて頂きます。

★「大阪乾癬患者友の会」の幹事会は全て会員や相談医の方のボランティアで成り立っています。会では幹事になって頂ける方を募集しています。幹事の人数が少なく大変困っています。自分のやれる範囲でももちろん結構ですから、ぜひお手伝い下さい。当面次の仕事をお手伝い頂ける方を探しています。 1) 定例総会等行事のボランティア 2) 会報送付作業のボランティア 3) ホームページ管理等のボランティア 4) 幹事会参加メンバー(5名程度)

ホームページのご案内

大阪乾癬患者友の会(梯の会)では、ホームページを作成・運用しております。乾癬についての治療法・薬・生活上の注意や総会のお知らせ・会報の抜粋・掲示板・乾癬関係のホームページへのリンクなどが掲載してあり、役に立つ情報が一杯です。ぜひ御覧になって下さい。ホームページアドレスは下記の通りです。



<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/psor/>

会員の皆さまへ 会費納入のお願い

年会費を下記の要領で徴収させていただいております。より充実した会の運営のため何卒、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

会 費：年間 3000円

納入方法：郵便振替

納入期限：毎年3月末日までに納入お願いします。振込用紙に必要事項を記入のうえ郵便局の振り替え口座に振り込みをお願いします。会費につきましては、未納の場合、自動的に退会となります。

郵便振替 口座番号： 0920・2・155745 「大阪乾癬患者友の会」

「PSORIA NEWS」

第33号 2007年(平成19年)8月発行

発行：大阪乾癬患者友の会(梯の会)

事務局：550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

日本生命済生会附属日生病院皮膚科内

TEL 06-6543-3581

E-mail info-psoria@derma.med.osaka-u.ac.jp

発行責任者 岡田(会長) 小林(編集責任)

2007年度 大阪乾癬患者友の会 幹事

会長	岡田	会報編集	高橋	幹事	山田
副会長	中山	書記	浜田	幹事	桔梗
事務局長	東山	幹事	原田	幹事	武居
会計	池内	幹事	北浦	幹事	吉田
会計監査	加納	幹事	赤瀬	幹事	吉田
会計補佐	吉岡	幹事	宮崎	幹事	花房
会報編集	小林				